

期待性から見る日中条件表現の対照

－中国語の“p, 才q”との対照を中心に－

李 光 赫

キーワード: 前提条件・必須条件・期待性・反期待性・誘導推論・可能文

要旨

本稿では、日本語と中国語の条件文の期待性・反期待性問題を明らかにするため、〈前提条件・必須条件〉の立場からト・タラ・バ形式と“p, 就q”“p, 才q”の対応関係について考察した。まず、〈必須条件〉読みになる場合日中両言語とも後件に反期待的内容が来ないが、〈前提条件〉読みになる場合はそのような制限はない。また、日本語では〈前提条件・必須条件〉の区別がはっきりしないものの、基本的にト・タラ形式は〈前提条件〉読みの傾向が強く、バ形式は〈必須条件〉読みの傾向が強い。それに対して、中国語では〈前提条件〉表示文は“p, 就q”に、〈必須条件〉表示文は“p, 才q”にと形式的に異なっている。更に、日中両言語の〈必須条件〉は可能文と「後件成立を目指す」といった点で論理構造が似ていて、「後件成立を目指しているから、それに必要な条件を求めるに違いない」といった「事態の成就への期待の存在」があると言える。そのため〈必須条件〉表示文が可能形式になっている場合がしばしばあるといった点で日中両言語は共通する。

1. はじめに

日本語の条件文ト・タラ・バ形式は中国語では基本的に“p, 就q”で表すが、そのうち、バ形式の実際の対訳例からは、“p, 就q”だけでなく、“p, 才q”で訳されている場合も多く見られている。

- (1) a. 私は求めて生を得たのではなかったが、一旦平穏な病院生活に入ってしまったば、強いてその中断を求める根拠はなかった。 大岡昇平『野火』
 b. 我并不是靠求生而活下来的, 可一旦进入平稳的医院生活中, 也就没有理由强迫自己中断它。 尚侠等译『野火』
- (2) a. 子ども自身だって、よくやったぞと思っているとき、ほめられば、納得し、意欲的になれるからです。 中澤次郎・鈴木芳正『ひとりっ子の上手な育て方』

- b. 因为, 只有当孩子自己也觉得做得挺不错的时候, 他才能够接受, 从而鼓起更大的干劲。
 何明译《独生子女优育法》

本論ではこのようなバ形式と中国語の“p, 就q”、“p, 才q”との対応関係を考察することを目的とする。

2. 先行研究

2-1. バ形式の特徴: 非個別的事態と裏の意味

客観的な継起を示すト形式、個別的・その都度的な状況を示すタラ形式と違って、バ形式は前件と後件の条件関係を表しており、その裏に「～でなければ後件は起らない」ことを含むとされている(有田1993, p. 236参照)。また、「恒常条件・一般条件などと呼ばれる表現に見られるような、条件の一般的非個別的傾向が強い」(山口1969)表現形式である。即ち、バ形式は日本語の条件形式の中で最も論理性がつよい条件を表しており、「pでなければqでない」という誘導推論が可能な形式である。

小出ほか(1981)では、「ば」の基本的性格の中に、「S2にはS1の行為者の利益になる内容がくる」ことや、「S1に行為者がいない場合、S2にはS1から考えて、社会的通念に沿った期待に合致する内容がくる」ことを掲げている。

しかし、このような従来の研究では、どうしてバ形式だけに期待性の問題が存在するのかといった問題についての分析がない。この点について前稿、李(2007a, 2010)ではバ形式が表す意味を〈前提条件〉と〈必須条件〉に分けることを提案した。

次の(3)は普通(3a)のように〈前提条件〉読みになる場合が多いが、場合によっては(3b)のように〈必須条件〉読みになる場合もある。

(3) 二十になればばタバコが吸える。

- | | |
|-------------------------------|----------|
| a. 二十になれば、当然ながらタバコは吸える。 | 〈前提条件読み〉 |
| b. 二十になって <u>こそ</u> 、タバコは吸える。 | 〈必須条件読み〉 |

前提条件読みの場合は(4a. cf)のように必ずしも誘導推論を引き出すとは限らないのに対して、必須条件読みの場合は(4b. cf)のように誘導推論が可能である。

(4)a. 二十になればば、当然ながらタバコは吸える。

cf. ? 二十にならないと、タバコは吸えない。 〈誘導推論〉

b. 二十になってこそ、タバコは吸える。

cf. 二十にならないと、タバコは吸えない。 〈誘導推論〉

この二種類の含意の違いを分析するために、李(2010)では〈前提条件〉読みと〈必須条件〉読みになる文を次のように定義した。

○〈前提条件〉表示文の文法的特徴

定義:与えられた条件から結果(結論)を引き出す、前件成立に伴う当然の結果を表す条件文。

特徴 A1:「とにかく」「当然」「当たり前だ」という語と共起できる。

A2:誘導推論ができない(或は必ず誘導推論が可能とは限らない)。

A3:後件に疑問詞がくるが、前件には疑問詞が現れにくい。

○〈必須条件〉表示文の文法的特徴

定義:与えられた結果から遡及して成立条件を探る、後件成立のための条件を表す条件文。

特徴 B1:「てこそ」「てはじめて」などの語と置き換えが可能である。

B2:誘導推論が可能である。

B3:前件に疑問詞がくるが、後件には疑問詞が現れにくい。

2-2. 中国語での“充足条件”と“必要条件”

本論でいう〈前提条件・必須条件〉とは必ず一致するとは限らないものの、中国語にもそれと似た“充足条件・必要条件”という概念がある。例えば“只要p, 就q”は普通“充足条件”読みになる場合が多く、“只有p, 才q”は普通“必要条件”読みになる場合が多いとされている(詳しくは邢2001、徐2002参照)。ここでいう“充足条件・必要条件”は本論でいう〈前提条件・必須条件〉に近いものだと考えられる。

しかし“只要”は意味的に日本語の取立詞「サエ」に近く、“只有p, 才q”は日本語の「～てこそ」「～てはじめて」と意味的に近いと考えられる。そのため、本論では“只要p, 就q”と“只有p, 才q”を考察範囲に入れず、中国語の“p, 就q”、“p, 才q”と日本語の「ト・タラ・バ」に限って考察することにする。

3. 日本語の〈前提条件〉と〈必須条件〉

3-1. 〈前提条件〉読みになるト・タラ形式の特徴

ト形式は普通前件成立に伴う当然の結果といった〈前提条件〉読みになる場合が多い。一方の事態が先にあって、もう一方の事態が時間の流れにそってそれに付随するという、時間的共起性が特徴的であるト形式は、動作の連続を表す表現によく見られるが、一般的・恒常的条件を表す場合でも、同じく前件成立に伴う当然の結果を表す〈前提条件〉読みになる傾向が多い。

タラ形式も基本的に〈前提条件〉を表す形式である。タラ形式は「事柄が起ってしまった場合を想定して、若しくは既に生起した状態において、主題の人間や事物に起った事柄や、その想定に対する話し手の立場・意見を叙述する」(森田1967)であるとされる。即ち、タラ形式も〈前提条件〉表示文の特徴を備えている。

ト・タラ形式が〈前提条件〉読みになる場合は後件が焦点になり、以下の三つ(A1、A2、A3)の条件を満たしている。

A:〈前提条件〉表示文の特徴(「 $p \rightarrow q$ (焦点)」=「条件→結果」)

A1: ト・タラ形式は「とにかく」「当然」「当たり前だ」という語と共起できる。

(5) このボタンを押すと、ドアが開く(のは当たり前だ)。

(6) 飛行機代が安くなると、(当然)利用する人が増えるに違いない。

(7) 歌詞がつまらなかったら、(当然)当然流行らないよ。

A2: ト・タラ形式は誘導推論を引起さない(もしくは必ず誘導推論を引起こすとは限らない)

(8) このボタンを押すと、ドアが開く。 (蓮沼など2001)

cf. # このボタンを押さないと、ドアが開かない。

(9) 飛行機代が安くなると、利用する人が増えるに違いない。

cf. # 飛行機代が安くならないと、利用する人が増えないに違いない。

(10) 大人になったら、パイロットになりたい。

cf. *大人にならなかつたら、パイロットになりたくない。

A3: ト形式は後件に疑問詞がくるが、前件には疑問詞が現れにくい。

(11) こうすると、どうなりますか? (蓮沼等2001)

cf. *どうすると、どうなりますか?

(12) 7時にバスに乗ると、何時に着きますか? (蓮沼等2001)

cf. *何時にバスに乗ると、7時に着きますか？

A3+B3: タラ形式は前件と後件どちらにも疑問詞が現れる。

(13)a. どうしたら、彼女ができるのですか？

b. 彼氏がホストやっていたら、どうします？

タラ形式は前件と後件どちらにも疑問詞が現れるが、この点は後述する中国語の“p. 就q”と似たような特徴を持っている。

タラ形式は〈前提条件〉表示文の特徴 A_1 , A_2 , A_3 を備えているが、但し、タラ形式はバ形式やト形式と違って(13)のように前件と後件どちらも疑問詞が現れるし、(13a)の場合は焦点が前件にあり、〈必須条件〉読みになる。しかしタラ形式の基本的な用法は、前でもふれたように当然の結論への話し手の立場・意見を表す形式であり、基本的に〈前提条件〉読みに解釈される場合が多い。

3-2. 〈必須条件〉読みになるバ形式の特徴

恒常条件・一般条件などと呼ばれるバ形式は、条件の一般的非個別的傾向が強く、「～でなければ後件は起らない」といった裏の意味を持っているとされるが、つまり、裏の意味(誘導推論)を持っていること及び疑問詞が前件にしか現れないこと、この二つの特徴は〈必須条件〉表示文が持っている特徴そのものであると言える。

バ形式が〈必須条件〉読みになる場合は前件が焦点になり、以下の三つの条件(B1、B2、B3)を満たしている。

B: 〈必須条件〉表示文の特徴(「p(焦点)←q」=「条件←結果」)

B1: 「てこそ／てはじめて」などの語と置き換えが可能である。

(14) 問: いつになればタバコが吸える？

答: 二十歳になればタバコが吸える。

cf. 二十歳になってはじめてタバコが吸える。

(15) 問: どうすれば、プロジェクトは成功する？

答: 彼を仲間にすれば、プロジェクトは成功する。 (今仁1993)

cf. 彼を仲間にしてこそ、プロジェクトは成功する。

B2: 誘導推論が可能である((14答)=(16)、(15答)=(17))。

(16) 二十歳にならないとタバコは吸えない。

(17) 彼を仲間にしないと、プロジェクトは成功しない。(今仁 1993)

B3: 前件に疑問詞がくるが、後件には疑問詞が現れにくい。

(18) a. どの辞書を引けば、この漢字の意味が分かりますか？

b. ?この辞書を引けば、何が分かりますか？(蓮沼など 2001)

c. この辞書を引(くと／いたら)、何が分かりますか？

(19) a. 何を飲めば、お腹の痛みがおさまりますか？(蓮沼など 2001)

b. ?これを飲めば、どうなりますか？

c. これを飲(むと／んだら)、どうなりますか？

このように、後件成立のための〈必須条件〉を表すバ形式は、「前件が成立してハジメテ後件が成立する(B1)」という意味、即ち「前件が成立しないと後件が成立しない(B2)」といった後件成立のための〈必須条件〉読みになる傾向が強い形式である。そのため「(後件成立のために)ドウすればいいのか(B3)」といった疑問形を用いることが可能である。

4. 中国語の〈前提条件〉と〈必須条件〉

中国語でも日本語のように〈前提条件・必須条件〉読みになる形式がある。“p, 就q”は基本的に〈前提条件〉読みに解釈される場合が多く、“p, 才q”は基本的に〈必須条件〉読みに解釈される場合が多い(20a, b)。

(20) a. 到了二十岁就能抽烟。(二十歳になったら、当然ながらタバコは吸える。)

b. 到了二十岁才能抽烟。(二十歳になってこそ、タバコは吸える。)

4-1. 〈前提条件〉読みになる“p, 就q”

A: 〈前提条件〉表示文の特徴(「p→q(焦点)」=「条件→結果」)

A1: “反正/当然/自然而然”などという語と共起できる。この場合の“p, 就q”を“p, 才q”に置き換えると非文になる。

(21) 文章有了无穷之意, 当然就能使人百读不厌了。 《中国儿童百科全书》

(文章が深い意味を持っていたら、当然ながら何回読んでも飽きない。)

cf. ? ……文章有了无穷之意, 当然才能使人百读不厌了。

(22) 但也不是说经济生活水平上升了, 富了, 有钱了, 道德水准就自然而然地提高了。

《1994年報刊精選\10》

(しかし、経済生活水準が上がった、豊かになった、お金もあった、というだけで
道徳水準が自然に高くなったというわけではない。)

cf. ? ……富了, 有钱了, 道德水准才自然而然地提高了。

A2: 誘導推論ができない(或は必ず誘導推論を引き出すとは限らない)。

(23)a. 现在看来, 只需从现时起, 再有一年左右的时间, 就可能将国民党反动政府从根
本上打倒了。 毛毛《我的父亲邓小平》

b. 今になってみると、これから一年前後の時間があれば国民党反动政府を根底
から打倒することができる。 長堀祐造訳『わが父・鄧小平』

cf. * ……不需要一年左右的时间, 就不可能将国民党反动政府从根本上打倒了。

A3 + B3: 前件と後件、どちらも疑問詞がくることが可能である。

(24)a. 一个人怎么样就能够真正地提高他的英语口语。 杜子华《英语成功学(下)》
(どうしたら英会話のレベルを確実に高めるのだろうか)

b. 干什么工作就能在一年挣下10万元? (自作例)
(どんな仕事をしたら年棒10万元をもらえるだろうか。)

(25)a. 世上没女人就会怎么样? (自作例)
(もし世の中に女性がいなかったら、どうなるだろう。)

b. 一个人如果没有竞争对手, 就会怎么样? (自作例)
(人は競争相手がなかったら、どうなるだろう。)

“p, 就q”の前件と後件が共に疑問詞が現れるとのことは日本語のタラ形式と似ている。“p, 就q”は〈前提条件〉表示文の特徴A₁, A₂, A₃を備えているが、(24)、(25)のように前件と後件どちらも疑問詞が現れるし、(24)の場合は焦点が前件にあり、〈必須条件〉読みになる。“p, 就q”の基本的用法は、「『前件が実現されると、それとともに後件が発生する』という『時間』レベルの依存関係」(井上2003, p56)であるため基本的に〈前提条件〉読み解釈される場合が多い。

4-2. 〈必須条件〉読みになる“p, 才q”

B: 〈必須条件〉表示文(「p(焦点)←q」=「条件←結果」)

B1: “p, 才q”は“必須p, 才q”若しくは“除非p, 才q”に置き換えが可能である。

(26) 美国人只能了解到中国人生活的50%或60%。你要去中国才能真正了解中国人。

《我的世界我的梦》

(アメリカ人は中国人の生活の50%或いは60%しか理解できていない。中国に行けばこそ本当の中国人を理解できる。)

cf. ……除非你去中国才能真正了解中国人。

(27) 刚生下的幼熊只有500多克重, 要经过1年左右的哺育, 才能独立生活。

《中国儿童百科全书》

(生まれたばかりの熊の赤ちゃんは500gくらいで、一年くらいの哺育を経てこそ独立して生活できる。)

cf. ……必须要经过1年左右的哺育, 才能独立生活。

B2: 誘導推論が可能である。

(28) 人每天应吃10—12克食盐, 才能维持正常的活动。 《中国儿童百科全书》

(人間は毎日10-12gの食塩を食べてこそ、正常な活動が維持できる。)

cf. 人每天不吃10—12克食盐, 就不能维持正常的活动。

(29) 纪律是各项事业成功的保证。有了纪律, 才能协调一致, 保证社会主义现代化建设的顺利进行。 《中国儿童百科全书》

(規律はいろいろな事業の成功の保証である。規律があればこそみんなが協調一致できるし、社会主義現代化建設が順序良く進める保障である。)

cf. 纪律是各项事业成功的保证。没有纪律, 就不能协调一致, ……。

B3: 前件に疑問詞がくるが、後件には疑問詞が現れにくい。

(30) 怎样才能搞好中日关系? (どうすれば日中関係を改善できるか。) (自作例)

(31) * 搞好中日关系, 才会怎样? (自作例)

以上のことを〈前提条件〉と〈必須条件〉の立場から日中両語の対応関係を次のようにまとめることができる。

〈表 1〉

	A : <前提条件>読み		A+B	B : <必須条件>読み	
日本語	A ₁	ト / タラ	×	バ	B ₁
	A ₂	ト / タラ	×	バ	B ₂
	A ₃	ト / タラ	タラ	バ	B ₃
中国語	A ₁	p, 就q	×	p, 才q	B ₁
	A ₂	p, 就q	×	p, 才q	B ₂
	A ₃	p, 就q	p, 就q	p, 才q	B ₃

5. 日中条件文の相違

5-1. 時間レベルと論理レベル

井上優(2003)で取りあげた「時間・論理」レベルでの日中両語の接続詞の対照は本論と関わりがあるので少し触れることにする。

「益岡隆志(1997)では、個別的事態間の依存関係を表す『タラ』節にはテンスがあるが、一般的な因果関係を表す『バ』節は事態の型を総称的に表し、テンスはないとする。文法カテゴリーとしてのテンスを持つ日本語では、条件従属節にテンスを組み込むことによって、個別的事態の『時間』レベルの依存関係が表されるのである」(井上2003, p58)。

更に「タラ」と“就”の関係については、

「文法力カテゴリーとしてのテンスを持たない中国語では、“就”のない条件文は、時間の流れを捨象した『論理』レベルの依存関係しか表さない。そして、それを個別的事態の『時間』レベルの依存関係に変えるためには、“就”のような時間に関わる副詞の助けが必要である。文法力カテゴリーとしてのテンスがないのを他の手段が補って、日本語の『タラ』に通ずるレベルの関係づけが実現されているのである」(井上2003, p58)。

以上の説を基に本論での「ト・タラ・バ」形式と“p, 才q”“p, 就q”を再整理すると次のようになる。

①日本語条件文の場合：

日本語の動詞のル形は現在・未来を表し、タ形は過去を現す。このようなル形につくト形式とタ形に付くタラ形式を従来研究では時間レベルに属するとしている。それに対して、バ形式は「仮定形+バ」という接続法でル・タ形というテンスの概念を持たないテンス分化以前の段階である論理レベルに属するものである。

②中国語条件文の場合：

井上(2003)でも触れたように、時間副詞“就”で表す条件文は時間レベルのものである。“就”を用いないゼロ形式“p, q”は論理レベルに属するものである。中国語にはまた“p, 才 q”といった典型的な論理レベルに属する条件形式もある。これも“就”を用いない形式だと言えるだろう。これらは文全体が特定の時空間に限定されない一般的命題を表すのである。

以上の日中両語の条件形式を時間・論理レベルにまとめると次の図のようになる。

〈表2〉

	時間レベル		論理レベル	
日本語	ト	タラ	バ	—
中国語	p, 就 q		p, 才 q	p, q
形式類別	有標形式			無標形式(ゼロ形式)

これには少し注釈が必要であるが、日本語における時間・論理レベルの分類はあくまでも動詞の語尾のテンスの相違からの統語論的分類であるが、文法カテゴリーとしてのテンスを持たない中国語では統語論的分類ができない。つまり対訳上、時間レベルの“p, 就 q”が「ト・タラ」に、“p, 才 q”が「バ」に一对一で対応するということではない。この点については井上(2003)で似たような指摘がある。

「就」のある条件文が個別的事態の『時間』レベルの依存関係を表し、“就”のない条件文が前件と後件の『論理』レベルの依存関係のみを問題にするというのは、日本語の『タラ』『バ』が、その中心的な用法において、『個別的事態間の依存関係』『一般的な因果関係』を表す(益岡隆志1997)のと相通ずるところがある(ただし、このことは“就”のある条件文と“就”のない条件文がそれぞれ『タラ』『バ』と対訳

上対応するということではない)」(井上2003, p58)。

5-2. 必須条件と期待性

バ条件文には後件に反期待的意味内容が現れないといった問題を説明するためには、まず可能文の特徴から説明する必要がある。

尾上(1999)では可能文には「事態の成就への期待の存在」があるとされている。

(32)この煎餅はゆっくり噛めば食べられる。

(33)この鍋で料理すれば、ガス代が月々 2000円節約できる。

(32)(33)も「 p (焦点) $\leftarrow q$ 」=「条件 \leftarrow 結果」といった〈必須条件〉表示文の構造を持っている。つまり文の焦点が必須条件 p (「食べられる/節約できる」といった事態を成立させるために満たさなければならない条件)にある。

日本語では、可能形式だけでなく、次の(34)(35)のように「動詞終止形のままで、すなわち出来文把握という手段をとらないで、可能の意味を表していると読むことができる」。(尾上1998b, p93)。

(34)この車は、うまく運転すれば1リットルで20 k mも走る。 (尾上1998b)

(35)この樽には(きれいに詰めば)大根20本がはいる。 (尾上1998b)

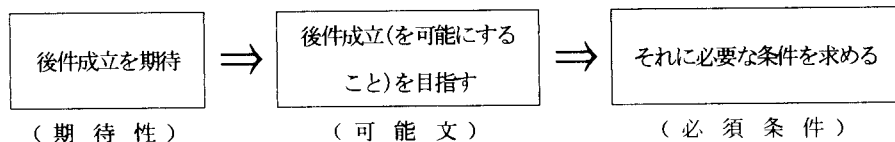
これは、「様々な述語形式の差を超えて、われわれがそこに可能の意味を読みとる場合とは、『動作主がその行為をしようという意図を持った場合にその行為が実現するだけの許容性、萌芽がその状況の中に存在する』という意味を感じとっている場合に起因するものだと考えられる」(尾上1998b, p93)。

「事態の成就への期待の存在」という立場からすると、〈必須条件〉読みになる場合のバ形式も同様の解釈が可能である。「バ形式が表す〈必須条件〉は、後件成立のための必須条件であるから、『後件成立への期待の存在』があると言える。言い換えると、後件成立を目指しているから、それに必要な条件を求めることができる。即ち、〈必須条件〉とは、後件成立のための欠かせない条件(前件)を指す。従って、『後件成立のための欠かせない条件をクリアして始めて後件の成立が可能になる』といった可能文的な意味合いを持つことになり、後件には反期待的な内容が現れない」(李2010,

pp39-40)。

以上のことを図に表すと次のようになる。

〈図1〉



つまり可能文では反期待的内容を表すことができない(36)し、反期待の内容を表す場合は可能形式ではなく「～てしまう」形式を使う(36cf)。

(36) *そんな暗い所で本を読めば、目を悪くされますよ。

cf. そんな暗い所で本を読めば、目を悪くしてしまいますよ。

実際中国語でも可能を表す形式“能・可以・会”の後ろと〈必須条件〉を表す“p, 才q”の後件に反期待的内容が現れない(37cf, 38cf)。

(37) 初春吃韭菜可以提高免疫力。 〈可能文〉

(初春に韭を食べると免疫力を高めることができる)

cf. * 初春不吃韭菜可以降低免疫力。 〈可能文〉

(38) 又落榜了, 如何才能实现“大学梦”? 〈必須条件・可能文〉

(また落ちた、どうすれば「大学夢」を実現できるか)

cf. * 如何才能高考落榜? 〈必須条件・可能文〉

しかし“p, 就q”は“p, 才q”と違ってこのような制限はない(39, 40)。

(39) 这个病没有什么了不得, 吃点药就会好的。 〈期待性〉

(この病は大したことではない。薬を飲めばすぐ直るだろう。)

(40) 吃了高热量的食物就会加重体重, 我该怎么办呢? 〈反期待性〉

(高カロリーの食物を食べたらすぐ太るのだ。私どうすればいい?)

必須条件および可能文に「後件成立への期待の存在」があると言うのは、言い換えると後件成立を目指しているから、それに必要な条件を求めるのに違いない。

6. 結論

本論では日中両語の〈期待性・反期待性〉を〈前提条件・必須条件〉の立場から考察した。まず日本語では：

- ①〈前提条件〉と〈必須条件〉の立場からト・タラ・バ形式を考察した結果、これらの三形式を〈前提条件〉読みの傾向が強いト・タラ形式と〈必須条件〉読みの傾向が強いバ形式に分けられることが分った。
- ②〈必須条件〉読みになる場合は、後件に〈非期待性〉を持った内容が現れないが、〈前提条件〉を表す場合は、そのような制限はない。
- ③「1. 期待性、2. 前件が焦点になる、3. 結果からその成立条件を求める」といった点で〈必須条件〉と可能文は論理構造が似ていて〈必須条件〉表示文は可能文になっている場合が多い。

次に、中国語では：

- ①〈前提条件〉読みになる傾向が強い“p, 就q”と〈必要条件〉読みになる傾向が強い“p, 才q”に分けることができる。
- ②〈必要条件〉表示文の“p, 才q”もバ形式と同じく、後件に〈非期待性〉を持った内容が現れないが、〈前提条件〉表示文の“p, 就q”はそのような制限がない。
- ③「1. 期待性、2. 前件が焦点になる、3. 結果からその成立条件を求める」といった点で〈必須条件〉と可能文は論理構造が似ていて、“p, 才q”は可能を表す動詞(“能愿动词”)である“能/可以/会”などと共起して“p, 才(能/可以/会)q”といった形式で〈必須条件〉を表す場合が多い。

つまり、〈期待性〉が表す「後件成立を目指しているから、それに必要な条件を求めるに違いない」といった「事態の成就への期待の存在」は日中両言語の文法的相違を超えて〈必須条件〉と可能文そのものが持っている論理構造だといえる。

用例出典

『日中対訳コーパス』CD-ROM版、北京日本学研究中心編。

中国語の例文はCCLコーパス(http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/)による。

参考文献

- 有田節子(1993)『日本語条件文研究の変遷』『日本語の条件表現』益岡隆志編、くろしお出版(pp. 41-71)
 有田節子(2007)『日本語条件文と時制節性』くろしお出版

- 井上優(2003)「文接続の比較対照—日本語と中国語—」『月刊言語(特集:つなぐ言葉)』32-2(pp. 54-59)
- 今仁生美(1993)「否定量化文を前件にもつ条件文について」『日本語の条件表現』益岡隆志編、くろしお出版(pp. 203-222)
- 尾上圭介(1998a, 1998b, 1999)「出来文(1)～(3)」『日本語学』17-7, 17-10, 18-1 明治書院(pp. 76-83, pp. 90-97, pp. 86-93)
- 小出慶一・小松紀子・才田いずみ(1981)「『ト, バ, タラ』—談話における選択要因を求めて—」『アメリカ・カナダ十一大学連合日本研究センター紀要』
- 金水敏・今仁生美(2000)『意味と文脈』現代言語学入門4、岩波書店
- 坂原茂(1985)『日常言語の推論』東京大学出版社
- 蓮沼昭子(1987)「条件文における日常的推論—「テハ」と「バ」の選択要因をめぐって—」『国語学』150(pp. 1-14)
- 蓮沼昭子・有田節子・前田直子(2001)『条件表現(日本語文法セルフマスタースリーズ7)』くろしお出版
- 前田直子(2009)『日本の複文』くろしお出版
- 益岡隆志(1993)「条件表現と文の概念レベル」『日本語の条件表現』益岡隆志編、くろしお出版(pp. 23-39)
- 益岡隆志(1997)『複文』新日本語文法選書2 くろしお出版
- 益岡隆志(2002)『複文各論』『複文と談話』日本語の文法4 仁田義雄、益岡隆志編、岩波書店(pp. 65-116)
- 森田良行(1967)「条件の言い方」『講座日本語教育』第三分冊
- 山口亮二(1969)「現代日本語の仮定条件法—「ば」「と」「たら」「なら」について—」『月刊文法』1-2
- 李光赫(2005)「条件を表す接続助詞トにおける日中対照」『国語学研究』44(pp. 93-105)
- 李光赫(2006)「条件文の誘導推論をめぐる日中対照」日本語学会2005年度秋季大会発表要旨『日本語の研究』2(2)(pp. 175-176)
- 李光赫(2007a)「条件文の誘導推論をめぐる日中対照」『国語学研究』46(pp. 100-111)
- 李光赫(2007b)『条件表現をめぐる日中対照』(東北大学大学院文学研究科博士学位論文)
- 李光赫(2010)「バ条件文の期待性と必須条件」『国語学研究』49(pp. 31-43)
- 李光赫(2011a)「ト形式の時間的限定性における日中対照」『日中言語対照研究論集』13(pp. 89-100)
- 李光赫(2011b)『日中対照から見る条件表現の諸相』風詠社
- 李光赫・張建伟(2012)〈从期待性看日语和汉语的条件句〉《日语研究》第9輯商务印书馆(印刷中)
- 邵敬敏(1997)〈从“才”看语义与句法的相互制约关系〉《汉语学习》第三期(pp. 3-7)
- 王维贤等(1994)《现代汉语复句新解》, 华东师范大学出版社
- 邢福义(2001)《汉语复句研究》, 商务印书馆
- 徐阳春(2002)《现代汉语复句句式研究》, 中国社会科学出版社
- 岳中奇(2000)〈“才”“就”句中“了”的对立分布与体意义的表达〉《语文研究》第三期(pp. 19-27)
- 张宜生(1996)〈现代汉语副词“才”的句式与搭配〉《汉语学习》第三期(pp. 10-15)